

地方公共団体名： 山口県柳井市

○提案内容

(1) 実現したい島のビジョン・方向性	
<p>柳井市は内陸部、半島部、島嶼部から形成される市であり、島嶼部にある平郡島は瀬戸内海に位置する山口県内で2番目に大きい島です。戦後第一次産業を中心とした産業で栄えてきた島で、近年はI・Uターン促進も積極的に行われていますが、令和3年11月時点で人口261人、高齢化率が約80%と山口県内でも高齢化が進む地域です。当市では、今後は島内の産業振興やそのための人材確保に努めると共に、人口減少が進んでも暮らしやすく持続可能な離島形成を行うことをビジョンに掲げております。</p> <p>地域で安心して暮らすためには医療、福祉、物流、災害時対策といった社会インフラの整備が不可欠ですが、離島という交通事情の特殊性から担い手の確保が非常に難しい状況にあります。中山間地等の過疎地と比較しても、離島航路は天候に左右されやすく便数も限られている、本土間の移動時間が長い、移動には船賃や鉄道等の交通費がかさむ等の背景を抱えており、新規担い手の流入増加が難しい状況です。当市の試算では、平郡島の高齢化は今後更に進み2040年には人口が100人を切ると予測されており、社会的サービスの地域間格差が生み出されかねないことが懸念されております。島内の課題は必要な資源の不足及び偏在から引き起こされるものであり、持続性確保のためにはICTによる効率化、資源の再配分、そして複数課題を俯瞰して解決する体制が必要不可欠であると考えます。また、島内の課題に加えて特に配慮すべき事項として、高齢化により担い手にも限りがあること、島内・島外には海上を含み通信環境が良くない地域があること、高齢化が進む地域であり島民が操作の煩雑な専用機器を活用することは難しいこと、高額な専用基盤や基地局整備は地方自治体としても財政的に難しいこと等が挙げられ、これらの要素を踏まえて最適解を検討していく方針としております。</p>	
(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題	課題の分類
<p>今回新技術の導入により解決したい離島課題は地域における医療福祉基盤整備を中心とした以下の3つの課題です。(添付資料P1)</p> <p>①常勤医不在による地域医療確保困難 令和3年度より島内診療所常勤医が不在となり、山口県より非常勤医を派遣していただくことで診療体制を維持しています。週2回の診療の度の往復2時間又は3時間20分の移動時間は医師の負担であり、貴重な医療資源の空費となっております。高齢住民が多いため、診療日数の減少による急変対応への不安の声もあり、医療提供体制の確保が求められています。</p> <p>②高齢化による見守りの担い手不足 診療体制のほか、見守りの担い手側の高齢化と人材不足が問題となっています。島内では高齢独居、高齢者のみ世帯が全世帯の3/4程度を占めており、地域で安心して暮らすために必要な見守りの担い手が確保できなくなりつつあります。地域で高齢者を支えてきたところではありますが、訪問や対面のみで高齢者を見守り支えていくことが難しくなっており、日常の健康管理、安否確認、急変時対応を遠方の家族を巻き込む形で効率的に行える体制を構築することが必要となっています。</p> <p>③災害時の安否確認と処方薬配送手段不足 平郡島は瀬戸内海に位置し、近年、梅雨や台風の時期には2、3年に一度、豪雨災害に見舞われて島内唯一の道路が寸断され、定期診療や処方薬配送が困難となります。平成28年6月、令和2年7月と令和3年8月には豪雨災害により島内の東西集落を結ぶ唯一の道路が通行止めとなり、孤立集落の島民が日常薬内服ができなくなる等の生命維持インフラの破綻が懸念されました。また、島内のほとんどは起伏の激しい山岳地帯であり特に島内西集落にはLTE通信状況が悪い地域があります。そのような地域では、従来のLTE通信を使った通信による安否確認やLTEドローンによる運送は難しい状況にあり、災害時における島民の安否確認や処方薬配送手段が不足している状態です。</p>	<p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <p>交通・モビリティ 物流 産業 担い手確保・人材育成 健康・医療 教育 観光 環境 エネルギー 防災 その他</p>

(3) 新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)

新技術の導入により、離島特有の人口減と地理的状況による複数問題を包括的に解決する体制を構築します。専門機器やシステム開発は行わず安価で維持管理が容易な体制を作ること、島内の既存人材育成を行い島内状況の反映と体制の持続性向上を実現することに留意し、以下の体制構築により課題解決を行う方向です。(添付資料P2)

(1) 日常バイタル活用による質の高いオンライン診療体制

高齢者が多い離島においては、安心して日常生活を送るためには医療アクセスの維持が必要不可欠です。島内診療所常勤医の確保が難しい場合でも、日常バイタル活用により、島民の体調を医師が遠隔・リアルタイムで知ることができ、遠隔でも質の高い日常診療や急変時トリアージを行うことができます。医師の移動負担軽減と島民診察対応時間の拡大を実現することができ、医療確保を行いつつ島民の医療アクセスを解決することが可能となります。

(2) 遠隔バイタルモニタリングによる高齢者見守り体制

ウェアラブルデバイス等で取得できる位置情報とバイタル情報を活用して家族間、近隣住民、行政による見守り体制を作ります。高齢の島民をICT活用により遠隔で見守る体制を作ること、怪我や急変見逃し等のない効率的な見守りを実現することが可能となります。バイタル収集は遠隔見守りや遠隔診療に加え、島民の健康管理にも役立ちます。日常のバイタルを収集・解析し結果を基に家族やウェアラブルデバイスから呼びかけることにより、島民の健康リテラシー向上と健康寿命延伸、引いては島内居住につながる効果的な予防医療介護活動が可能となります。

(3) LTE圏外通信による災害時の安否確認・処方薬配送体制

離島医療と高齢者見守りに加え、新技術を導入し離島物流課題も解決します。従来のLTEドローンが使えない海上輸送や山岳輸送を実装することにより、災害時に迅速で効率的な薬剤管理を実現します。災害時の配送路確保により、生命維持にも寄与する体制を構築します。

(4) その他

なし

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

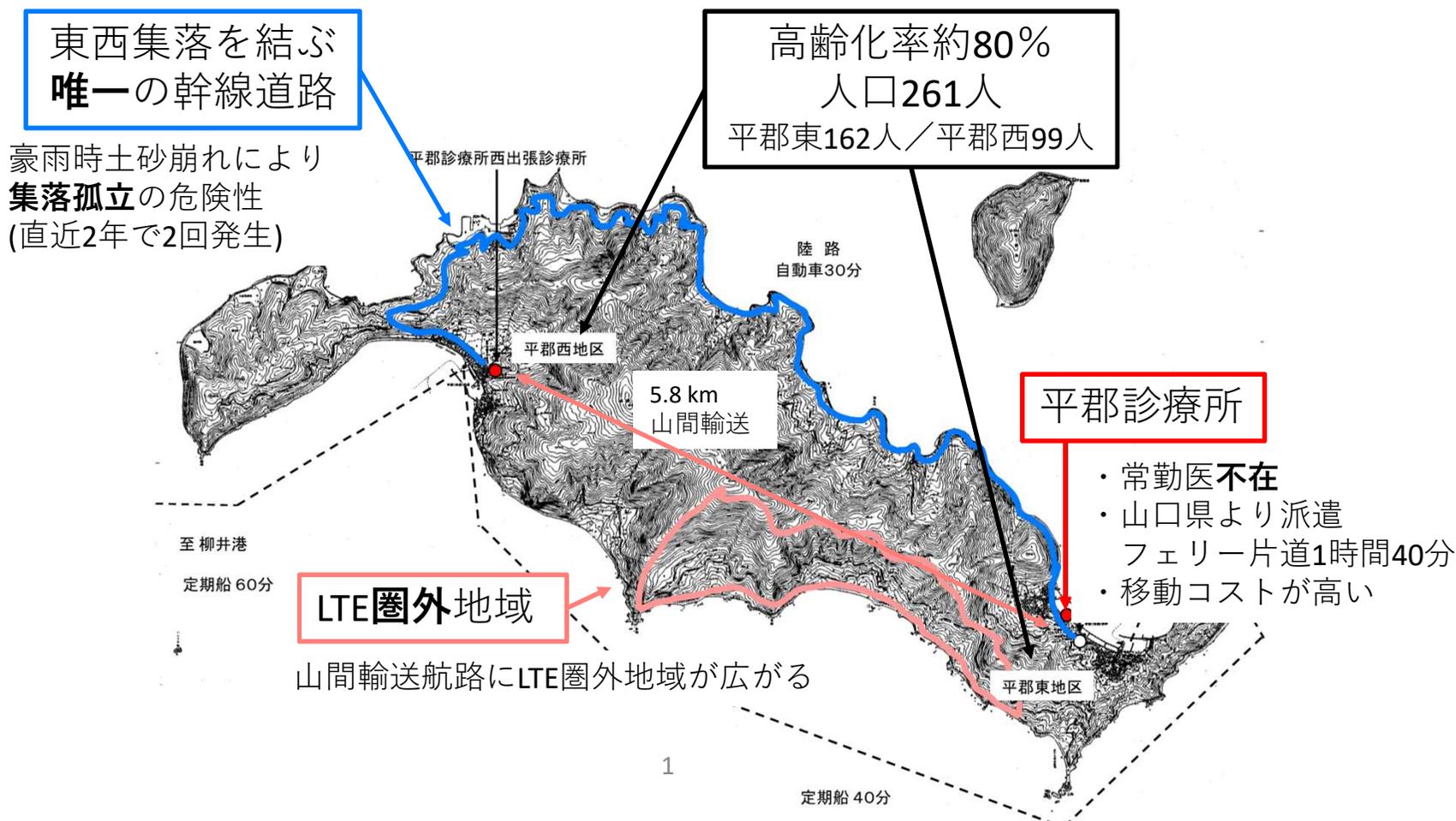
○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
健康福祉部 健康増進課	佐伯 賢紀	0820-22-2111内線158	kenkozoshin@city-yanai.jp

平郡島(山口県柳井市平郡)

解決したい離島課題：

- ①常勤医不在による**地域医療確保困難**
- ②高齢化による**見守りの担い手不足**
- ③**災害時**の安否確認と処方薬配送手段不足



解決策： 遠隔医療・遠隔見守り・災害時安全管理を同時実現

